

牛久：学校周辺に見る自然

第30号 牛久二小

2012年9月29日発行

＜夏の終わりの動物たち ②バッタの仲間＞

牛久二小4年2組との「夏の終わりの生き物」観察。今回はバッタの仲間を紹介しましょう。



こんなに大きくなった、ショウリヨウバッタ。おなかの大きなメスもいましたね。

6月にはまだ小さな小さな幼虫だった**ショウリヨウバッタ**も、こんなに大きくなっていました。卵を産む直前なのか、おなかがはち切れそうに大きくなったメスもいましたね。特にイネ科の葉を好んで食べますが、他の草の葉もけっこう食べるようです。旧盆（精霊祭：しょうりょうまつり）のころに多く見かけることからついた名だそうです。イネ科の草の中に入られてしまうと、葉と区別がつきにくくて、見失ってしまいそうです。「自然のかくし絵」ですね。



その名の通りの**オンブバッタ**。上の小さいのがオスで、下がメス（左）。特にキク科の葉をよく食べるためか、マリーゴールドの花にもとまっていた（右）。

おんぶしてないとショウリヨウバッタとまちがえられることもありますが、こちらは**オンブバッタ**。頭や胸をよ〜く見くらべてみると、違いが分かりますよ。他の多くのバッタと違って双子葉植物の広い葉を食べ、特にキク科の葉はよく食べるようです（他の多くのバッタの仲間はイネ科の葉を食べる）。おんぶしたまま、

どのくらい飛ぶことができるでしょうね？そのジャンプ力を調べてみるのもおもしろいでしょう。



こちらは、複眼ふくがんの下の涙なみだの
ようなもようが特徴の**ツチイ
ナゴ**。3年生春の観察で大き
な成虫がいました。ほとんどの
バッタ類は、夏の終わり～
秋に産卵さんらんし、卵で冬を越すよ
うですが、中には成虫で冬越
しするのもいるのです。成虫
はその名の通り土色をしてい
ますが、幼虫は右の写真のよ
うに緑色をしています。でも
それでも、目の下に涙なみだもよう
があるので、見まちがえるこ
とはありません。

その名の通り、土色をしたツチイナゴの成虫（左）。

幼虫は緑色で別のバッタのように見えるが、やはり複眼の下に涙のようなもようがある（右）。



土と同じ色で見失いやすい、クルマバッタモドキ。図鑑には書いてないが、後あしの後側が赤くなるのも特徴か？

写真のように、褐色かつしよくで土の色にとけこんでいるものが多いですが、中には緑色のもいる**クルマバ
ッタモドキ**。よく似たクルマバッタは、胸部の背中が盛り上がっているので区別できます。また、
マダラバッタも似ていますが、そちらは後あしの後ろが、名の通り赤、青、黒のまだらになっている
ので区別できます（私の図鑑には書いてありませんが、クルマバッタモドキは、写真のように後あし
の後側のほぼ全体が赤くなるようです）。

最後に、キリギリスに近いツユムシの仲間とエンマコオロギ。キリギリスの仲間は肉食や雑食のも
も多いですが、それに近い**ツユムシの仲間**は草食。よくクモなどにつかまっているのを見かけま
す。長い触角（しよっかく）と後ろ足も特徴。ブルーシートの水たまりを泳いでいました。**エンマ
コオロギ**は雑食で、他の昆虫の死がいや野菜くずなどもよく食べるので、家のまわりにもよく見か



けます。虫かごで飼っていると、オスがメスに食べられてしまうこともあります。

【理科支援員 宮内】

草食性のツユムシの仲間（左）と
雑食性のエンマコオロギ（右）。